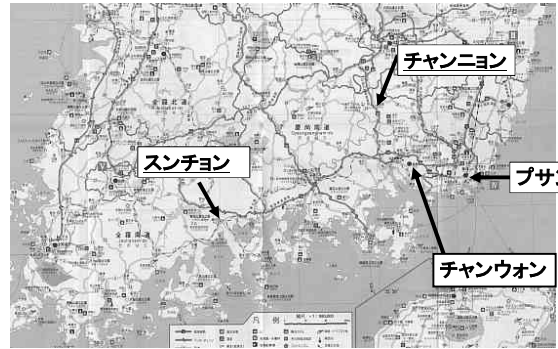


世界NGO湿地会議と COP10・サイドイベント



12月12日 ラムサール離速 報告会
花輪伸一(WWFジャパン), 浅野正富(Ramnet), 柏木実(JAWAN)



世界NGO湿地会議

日韓NGO湿地フォーラム

- ・ 第1回 2007年10月12-14日 東京
- ・ 第2回 2008年 4月29-30日 コヤン
- ・ 第3回 2008年 8月30-31日 東京

↓
世界NGO湿地会議
International NGO Conference on Wetlands

10月25-27日 チャンニョン / スンチョン

↓
ラムサール COP10

10月28日-11月4日 チャンウォン, 韓国

世界NGO湿地会議



10月25日 チャンニョン郡ウボ

CEPA会議 Communication,
Education, Participation, and
Awareness (広報・教育・参加・啓発)
基調講演, 事例報告, 水田, etc.
「地域住民とともに」がキーワード

世界NGO湿地会議

10月26-27日 スンチョン市

1. 湿地としての水田
2. 賢明な利用と賢明でない利用
3. スンチョンNGO宣言
4. 世界湿地ネットワーク設立

3日間で, 31か国, 約400人の参加



世界NGO湿地会議

スンチョンNGO宣言

- ・世界NGO湿地会議
- ・世界湿地ネットワークの設立
- ・決議案X.1, X.8, X.13, X.23, X.25, X.28, X.31への支持と要望
- ・韓国のセマングム事業, 沿岸域開発法への懸念
- ・賢明な利用の促進 (NGO決意)



世界湿地ネットワーク World Wetland Network(WWN)

目標: 湿地の保全と賢明な利用に関するNGO間のコミュニケーションのための国際的なツールを発展させる

目的: ①COP10におけるNGO声明や決議案の準備

②知識共有のための国際的プラットフォームの設立

③保全上のギャップ認識のための技術促進

④賢明な利用に係わる問題のワーキンググループ設置

組織: 議長, 副議長, 事務局, 地域委員, アドバイザー



サイド・イベント(11月1日)

ラムサール条約湿地の賢明な利用, 湿地の再生を目指す日本のNGO, 自治体, 国会議員の活動

- ・ラムサール条約湿地を増やす市民の会
- ・ラムサール条約登録地を増やす国会議員の会の活動
- ・豊岡市のコウノトリと水田, 河川の生物多様性の再生
- ・NGO事例: 渡良瀬遊水池, ハチの干潟(広島県)



サイドイベント

・世界の水田—特に生物多様性と持続的利用について(ラムサールCOP10のための日本NGOネットワーク, 同韓国ネットワーク)

・セマングムと諫早の干潟—死につつつあるが, まだ遅くない(セマングムの生命のための韓国協会, 有明海漁民・市民ネットワークほか)

・東アジアの沿岸湿地(韓国干潟フォーラム, Birdlife Intl. Etc.)

・湿地の文化的価値—アジアを中心として(日本国際湿地保全連合)

・その他



NGOの成果

- ・日韓の湿地NGOの連携
- ・「スンチョンNGO宣言」の採択とCOPでの発表
- ・世界湿地ネットワーク(WWN)の設立—一時的な会合から恒常的なネットワークへ
- ・サイドイベントでの発表—干潟, 水田, ラムサール議連, 自治体
- ・参加者への良い刺激—特に若者

